

2011年12月3日

各 位

株式会社 **ブルボン**

ドナルド・キーン先生記念館（仮称）計画のお知らせ

東日本大震災の発生後、日本文学研究の第一人者、米コロンビア大学名誉教授ドナルド・キーン先生は、懸命に生きる被災地の人々の姿に「この人々と共に生き、共に死にたい」と日本での永住を決意され、大学での最後の講義を終えて9月初旬に来日されました。

このことは、震災に打ちのめされた日本人への大きなエールとなりました。

先生は、日本の文学や文化が世界的にもレベルが高く、素晴らしいものであることを、永年世界に発信し続けて来られました。

また、当社の創業・所在の地である“柏崎”を角書きにもつ古浄瑠璃「越後國・柏崎 弘知法印御伝記」は、ドナルド・キーン先生のご提案により柏崎市で復活初演され、昨年325年ぶりに東京での里帰り上演が実現いたしました。

当社は、地元の人々とともに歩み、地方からの文化発信により、地域の活力を生み出していきたいとの思いから、社会貢献活動の一環としてその公演を支援し続けてまいりました。

これらのドナルド・キーン先生と柏崎とのご縁を大切に、当社では柏崎市内に先生のニューヨークでの書齋等の再現を中心とした記念館を計画し、先生のご了承をいただくとともに、先生も公言されておられますのでお知らせいたします。

ニューヨークの書齋等の再現や展示では、先生のこれまでの研究・著作活動と歩んだ人生の道のりとを、人となりや先生の愛してやまない日本への思い、日本文学研究への情熱、一途に真摯な先生の生き方などを、多くの方にお伝えするとともに、日本と日本人とを見直すことができる内容にしたいと考えております。

開館までにはお時間をいただきますが、地元の皆様からの温かいご協力を賜りますようお願い申し上げます。

【先生と柏崎市とのご縁】

柏崎市は2007年7月に震度6強の新潟県中越沖地震に見舞われました。柏崎市民が復興の陰しさに立ちすくんでいたとき、一つの文化活動が企画され実現に向けて動き出しました。それが、先生のご提案による古浄瑠璃「越後國・柏崎 弘知法印御伝記」の復活上演でした。2年近くの準備期間を経て、2009年6月に柏崎市で“人形浄瑠璃 越後猿八座”の旗揚げ公演として上演されました。復興の道を懸命に歩む市民に夢を与え、明日への希望の灯火となりました。

初演のパンフレットには、ドナルド・キーン先生が次のようなお言葉を寄せておられます。

『古浄瑠璃「越後國・柏崎 弘知法印御伝記」が、300年ぶりに地元柏崎で復活上演されることを私は大変喜んでおります。柏崎ゆかりのこの興味深い古浄瑠璃をたくさんの市民の皆様が鑑賞し、中越沖地震からの復興の力とされることをお祈りします。』

ドナルド・キーン（コロンビア大学名誉教授）

その人形浄瑠璃は、その後、新潟市や東京などでも上演され、そうした活動を当社は支援し、さらに柏崎市制70周年にあたる2010年には先生の講演会を開催するなど柏崎市民と一体となった文化活動を支援し続けてきました。

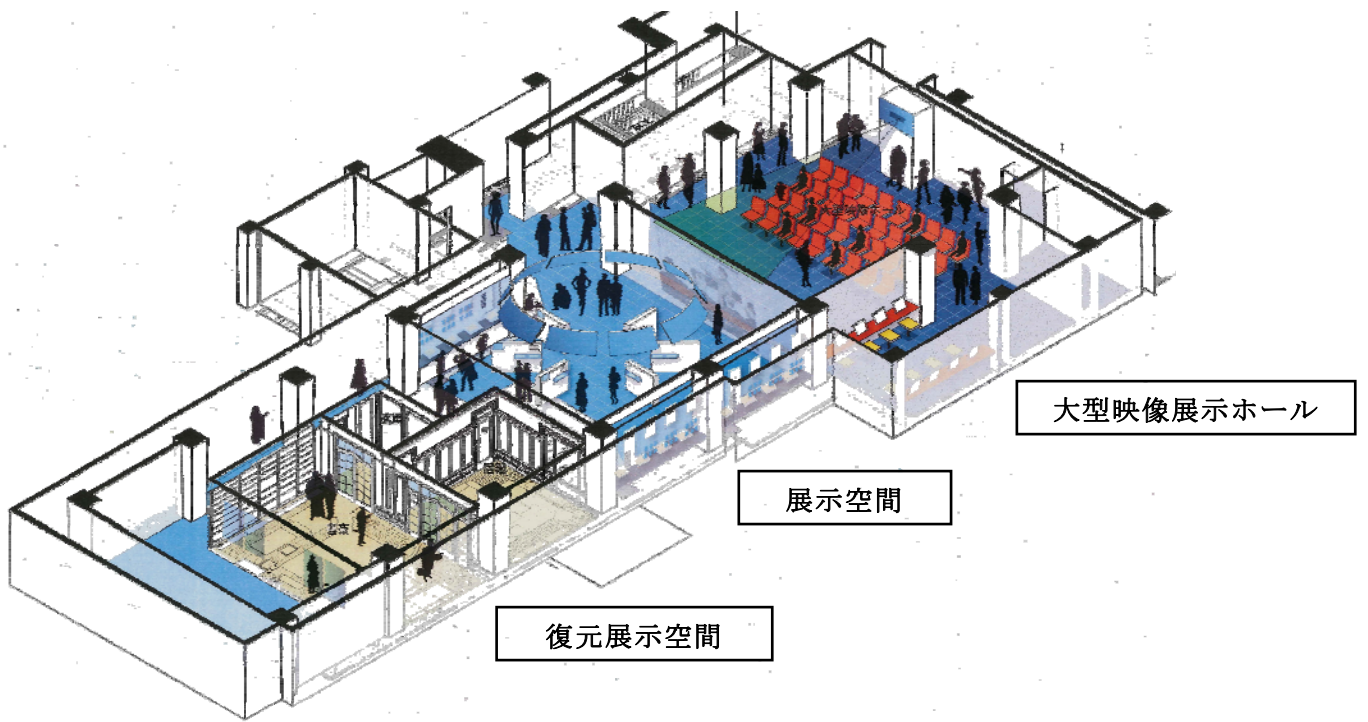
【ニューヨークの書齋等再現の構想】

ドナルド・キーン先生の日本永住に伴い、先生が世界に向けて日本文学や文化を紹介するための、発信の場であったニューヨークの自宅書齋等は、存在しなくなります。先生の限りない思いが刻み込まれている書齋は、日本人にとってもかけがえのない場所であり空間です。これを日本で再現し、後世に遺し伝えたいとの思いからニューヨークの書齋等再現の構想が生まれ、実現への推進を図ってまいりました。

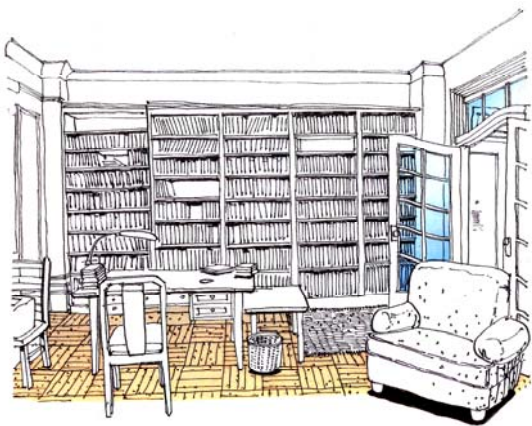
【ご参考】

当社は今年1月、古浄瑠璃「越後國・柏崎 弘知法印御伝記」が幾多の人々の熱い思いに支えられて東京公演に至った道のを、古浄瑠璃の魅力を変え紹介した新春スペシャル番組を放送しました。

また、日本と密接な関係にあったドナルド・キーン先生の半生を貴重な映像や写真で綴りながら、その半生に込められた日本への思いを先生ご自身の語りをとおして紹介する、カルチャースペシャル番組を10月にBS-TBSでお送りしました。



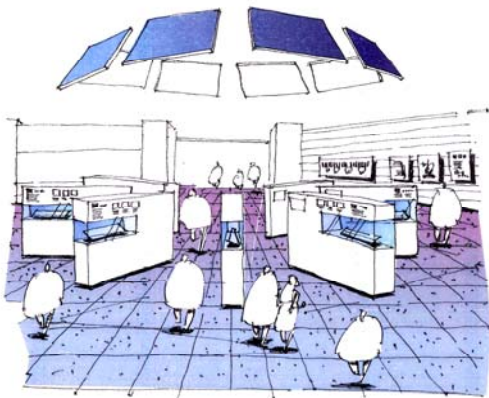
ドナルド・キーン先生記念館（仮称）計画のイメージ図



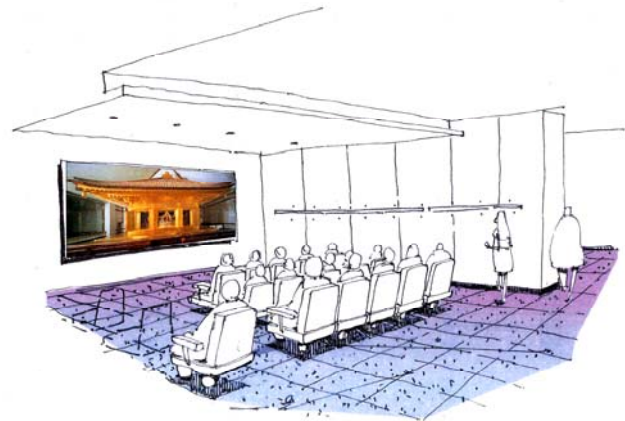
書斎の再現



居間の再現



展示空間



大型映像展示ホール

以上